

5 「技・人」分科会「新ビジョンの基本方針～プロジェクト」

出席者一覧

(敬称略)

役割	所属団体	役職名	氏名
コーディネーター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	副学長	池上 重弘
発言者	豊川市	市長	山脇 実
発言者	湖西市	市長	影山 剛士
発言者	駒ヶ根市	市長	杉本 幸治
発言者	箕輪町	町長	白鳥 政徳
発言者	阿智村	村長	熊谷 秀樹
発言者	豊川商工会議所	会頭	小野 喜明
発言者	浜松商工会議所	会頭	大須賀 正孝
発言者	NPO 法人三遠南信アミ	副理事長	中野 眞
発言者	和合むら		吉田 弓



コーディネーター

静岡文化芸術大学 池上副学長

先ほどのパネルディスカッションに続きまして、こちらの「技・人分科会」もコーディネーターを務めてまいります静岡文化芸術大学の池上と申します。参加者の皆様、どうぞよろしく申し上げます。

今年のサミットにおいて、第2次三遠南信地域連携ビジョンの策定が非常に大きなテーマになっております。先ほどから、申

し上げているとおり、10年前に策定された三遠南信地域連携ビジョンを今回改定するタイミングになっております。

まず、本日の分科会での意見交換のポイントを事務局から説明していただいた後、皆様との意見交換に入ってまいります。

では、事務局よりこの分科会の意見交換のポイントの説明をお願いします。

事務局

先ほど全体会、パネルディスカッションで新ビジョン全体の策定状況について、SENA 事務局から説明がありました。この分科会では、新ビジョンのうち、「技」と「人」について、基本方針、推進方針の案について、御説明いたします。

まず、技の基本方針について、資料集の14ページを御覧ください。

近年、IoT や人口知能、シェアリングエ

コノミーなどの第4次産業革命と呼ばれる技術革新が起きています。現行ビジョン策定後、次世代輸送用機器や、航空宇宙産業など、新産業の成長に取り組んできたこの地域でも、既存産業の継承とともに技術革新を取り込むことが必要です。新ビジョン、技の基本方針は、「革新を取り込む産業創造圏の形成」とし、既存産業の活力増進を図りつつ、産業構造の転換期を先取りすることで産業想像力を強化し、改革を取り込む産業創造圏の形成を目指します。この基本方針の推進のために、推進方針1「既存産業の活力増進」と推進方針2「産業想像力の強化」としました。

推進方針1「既存産業の活力増進」では、さらに主要政策①「人材、労働力の確保、育成」主要政策②「広域的な産業連携活動の推進」とし、それらを通じて地域内既存産業の継承と活力の増進を図ります。

推進方針2「産業想像力の強化」では、主要政策①「企業誘致と特徴ある産業クラスターの形成」、主要政策②「技術革新に対応した新産業の創出」、主要政策③「起用化支援とソーシャルビジネスの育成」とし、それらを通じて産業想像力の強化を図ります。

次に「人」の基本方針について、資料の15ページを御覧ください。

人口減少社会の中で、これまで本地域を支えてきたものづくり産業や農林水産業、健康医療分野での労働力や地域コミュニティの担い手不足が顕著になってきています。新ビジョン人の基本方針は、「地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成」とし、次代を担う人材の育成や確保、多様な文化が共生する社会の形成を通じて、地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成を目指します。この基本方針の推進のために、推進方針1を「次代を担う人材の育成確保」とし、推進方針2を「多文化共生社会の形

成」としました。

推進方針1「次代を担う人材の育成確保」では、さらに主要政策①「学生や労働者のスキルアップを目指した人材育成」、主要政策②「三遠南信地域に関する知識・情報の共有」、主要政策③「産業技術や文化財継承のための人材確保」とし、それらを通じて様々な分野での地域内の人材の育成確保を図ります。

推進方針2「多文化共生社会の形成」では、主要政策①「だれもが輝く地域づくり」、主要政策②「だれもが働ける雇用機会の創出」とし、それらを通じて多様な文化、価値観を持つ人々が輝いて生活できる多文化共生社会の形成を図ります。

また、資料集とは別に御用意した A3の資料を御覧ください。

新ビジョンの策定においては、SENA 構成員や策定委員会の委員、オブザーバーに御意見をいただきながら策定を進めております。この資料は、皆様からいただいた御意見についてまとめたものですので、参考にいただければと思います。なお、技は3ページ、人は4ページです。

さて、この新ビジョンの基本方針や推進方針、主要政策はこうした御意見をいただきながら、さらに検討を進めてまいります。

本日は、技、人分野の基本方針などについて、分科会での議論をお願いしたいと存じます。なお、基本方針などについて、本日決定するものではございませんので、各分野でご活躍されている方の視点から忌憚のない御意見をできるだけ多く賜りたいと存じます。

コーディネーター

今、私たちのこの分科会では、技と人という二つのテーマを扱うことを確認し、そのそれぞれのトピック、推進方針について事務局より説明をいただいたところです。

この分科会では二つのテーマがありますので、限られた時間ではありますけれども、議論を進めていくことができればと思っております。先ほど事務局から最後にも言及がありましたが、この分科会で何か一つの結論を出すことは目的としておりません。多様な考え方について皆様から何かコメントをいただくことができればと思っております。

では、まずは「技」、そして「人」と区切って進めてまいります。最初に「技」について御意見を賜りたいと存じます。またそれに伴う推進方針などもあれば、合わせて御意見をいただければと存じております。それでは、小野会頭からお願いします。

豊川商工会議所 小野会頭

まず、新ビジョン全体について、私が思ったことを言わせていただきます。

現行ビジョンの策定から大変歴史のある、意味のある10年だったと思います。ただし、この先10年、また同じ形でやるということはどうなのかと思うところがあります。我々の役目が先進的な広域県境モデルであるならば、現在の行政の枠を超えた新しい行政枠を形成し、立法化するというぐらい、新しいことをやってほしいと思います。もしそうしなければ、また同じ10年間を繰り返すのではないかと、非常に心配するところです。

次に「技」についてですが、新ビジョンには航空産業や、自動車産業などいろいろ盛り込まれていますが、重点的に取り上げる産業を一つだけに絞り込んだらどうかと思います。これは、3地域の状況を踏まえて、玉虫色みtainな内容になったのだと思うのですが、そういった配慮をせず、航空産業なのか、光産業なのか、医療機器なのか、SENA で引っ張る分野を一つに決めることにより、それぞれの地域の既存産業が

そこに引っ張られていく、もしくは、関係のない異業種がその産業に入っていくイメージをつくらなければ、「それぞれいろいろな業種がありますので、その産業基盤をそれぞれつくってください」では、三遠南信地域連携の意味がないではないかと思うのです。

例えば、東三河地域には航空産業がほとんどありませんが、南信州地域にあるのであれば、他地域がそこへどうやって入り込むかを、もしくはSENAがリーダーシップをとっていくことを考えていくべきではないでしょうか。SENA以外にも、県や国という枠組みがあるわけですから、SENAの特色を出していくには、一つの分野を決めて取り組んだらどうかということが一つです。

それから、人材の問題ですが、住みよい地域でありながら若い人たちがこの地域から出ていくことが前提であると認識しながら、その人たちに帰ってきてもらい、定着してもらうためには、ほかの地域に比べて優位な金銭的なインセンティブをつくり、結婚、子育てする方を引っ張ってこることが必要だと思います。

他にも考えていることはいろいろありますが、産業構造は非常に変化をしており、三遠南信地域で人材をつくり、確保することを目標にするだけでは、地域内の企業は多分生き残れません。既存の業種の変化し、国際化や国際競争の中で企業が切磋琢磨していくわけですので、それは三遠南信地域の持つパワーの引き出せる場所とはちょっと違うところにあります。つまり、三遠南信地域が生かすためにやれることを考え、そのリーダーシップをとり、全国の中で県境のモデル地域になるという自負をぜひ持っていていただいたらどうかと、持っていていきたいと思っております。

コーディネーター

あと10年、今のような形をまた繰り返しても新たな展開はないのではないかと、かなり激烈なコメントから始まりました。新しい行政の形をとれないだろうか。それは、全国のモデルになるような新たな広域連携の形にならないだろうかという点が1点。

それから、一つだけ産業を絞り込み、そこに選択と集中で三遠南信地域のリソース、知恵を投入するなど SENA らしい特色を出さなければ、現状のままでは総花的な列挙、羅列に終わってしまうのではないかということ。

さらに、この地域から人が出ていくことを当たり前と見た上で、いかに戻ってもらうか、そのためのインセンティブをどうつくっていくかとの御提案をいただきました。

それでは次に、箕輪町の白鳥町長からお願いいたします。

箕輪町 白鳥町長

私は、箕輪町の町長でございますが、伊那市から北にある伊北という地域の4市町村が今回新たに加入をさせていただきました。伊那市の人口が大体7万人くらい、私たち北部の3町村で6万人、トータルで13万人くらいです。

私たちの町は、浜名湖に近い、舘山寺のある浜松市西区庄内地区と50年、60年も交流を続けているものですから、非常に興味、関心をもっていたのですが、三遠南信自動車道が見えてきたこと、リニア中央新幹線の工事が始まった状況で、三遠南信サミットに参加をさせていただきました。

今、小野会頭からもお話があったのですが、民間は、もともと行政の枠を超えて動いているわけで、私も行政が遅れているという点は同感ですが、なかなか厳しい部分もあるかというものが率直な感想です。

伊那市北部は製造品出荷額ベースで

5,000億くらい、先ほどの資料集では三遠南信地域全体の製造品出荷額が14兆円と数字が出ていますので、3、4%にしかすぎませんが、中小企業の技術力や専門性の高い集積地ですので、三遠南信地域の連携、東三河地域や遠州地域との連携に期待するところは、非常に大きいと思っています。人口減少の流れの中で、特に女性の転出が非常に多くなっており、働く場として産業を、しかも女性に選ばれる場をつくっていかなければならないと思っています。

私たちの町で、私たちの世代では大体7割くらいの者は地域に残りました。今、地域に残る者は大体4割を切りました。人の移動はやむを得ない部分もありますけれども、とどまるための施策を実行するためには、地域連携はどうしても必要です。

「人」分野にも関係がありますが、地方では、お金だけでなく、実は人材も足りないのです。私は、自分たちの地域を自分たちだけでつくる時代はもう終わっていると思っており、外の知恵を取り込むためのネットワークがつかれないと、まちの創造はできないと思っていますので、こういった機会を通じて、違った発想や力を勉強させていただければ非常にありがたいと思います。

私の場合、浜松には年に2回、3回交流の関係で来ています。遠州地域まで来るのに3時間はかかっていますが、三遠南信自動車道が開通することによって、2時間くらいまで短くなるかもしれません。そうなれば、文化の交流が自然にできてくると思いますので、上伊那の北部、長野県では真ん中にまでいってしまうのですけれども、全方位外交がとれ、名古屋からも、東京からも、浜松、豊橋からも非常に優位な場所になると確信しています。

コーディネーター

人口減少を考えたとき、女性が転出し

てしまう、特に生産年齢の女性の転出が非常に大きな問題であるということ、その問題を解決するためには女性の働ける場が安定的につくらなければいけないこと、そのための地域連携を考えたいということ、そして、まちづくりのために、外の知恵、あるいはネットワークを築いていきたいとのお話をいただきました。

最後にお話があったように、今後非常に戦略的な場所になっていく箕輪町の町長が、オープンマインドな御発言をされたことに、私は非常に勇気を得ました。ぜひ、そういうネットワークが今後も広がってほしいと思っております。

それでは次に、静岡県で湖西市の影山市長から御意見をいただきます。

湖西市 影山市長

三遠南信サミットは、前回に続いて2回目の参加となります。

湖西市は、静岡県の一歩西、人口80万人の浜松市と人口38万人の愛知県豊橋市の大都市には含まれた、人口約6万人と、決して大きな町ではありません。湖西市は、トヨタグループの創始者である豊田佐吉翁の出身地であり、本日ちょうどお昼のNHKニュースでも取り上げていただきましたが、本日が豊田佐吉翁の命日にあたりました。本日午前中、トヨタの豊田章一郎名誉会長ご夫妻、章男社長ご夫妻、そしてスズキの鈴木修会長にもお越しをいただき、豊田佐吉翁の顕彰祭を執り行いました。そういった自動車産業を中心にしたものづくりのまちでございます。これまでのお話にあったとおり、三遠南信地域の、例えば湖西市の工場にも、信州から部品の提供をいただくなど様々な連携をいただいています。三遠南信自動車道はもちろん、そこから南の国道23号まで通じる浜松三ヶ日・豊橋道路の実現に向けて調査費を計上いただきました

が、そういったネットワーク形成をぜひ望んでいるところです。湖西市としても、「技」の推進方針2の中にある産業競争力の強化、特に新産業の創出を重点的に取り組みたいと思っております、その取り組みを簡単に御紹介させていただきます。

湖西市では、本年11月22日、23日の二日間にわたり、湖西ネオテクノフェアビジネスマッチングを開催の予定です。これは本年5回目になりますが、湖西市の企業35社と湖西市以外の企業46社の合計81社の参加を予定しており、これは湖西市や遠州地域だけではなく、三河地域や南信州地域からも出展をいただく予定になっております。車、いわゆる輸送用機器や産業機器、医療、環境機器が中心となっており、こういった産業は一つの市町村にある工場や企業でできることは限られておりますので、航空機産業や伝統の自動車産業のマッチングを進めていけたらと考えております。

さらに、湖西市では、浜名湖西岸の土地区画整理事業として50ヘクタールの区画整理に着手をしております。本日の佐吉翁の顕彰祭にもお話が出ておりましたが、ガソリンエンジンからハイブリッド、電気自動車、EVへの転換が迫られている自動車産業にあっても、高度化、そして集約が迫られており、こういった工業団地を造成し、さらに工場を集約していくことによる高機能化、付加価値を図っていくことが必要になっております。湖西市としてもそういったところに工業用地を確保して、自動車産業、さらには航空機等々、新産業の創出を図っていきたく思っておりますし、立地的にもこの三遠南信地域の東西南北とも今後道路等につながっていきますので、人材を含め連携を図っていけたらと思っております。

コーディネーター

人口規模では6万人という大きさの町ですが、新産業創出に向けて湖西ネオテクノフェアビジネスマッチングを毎年開催し、80社以上の参加があるとのことでした。

また、50ヘクタールの工業用地を今つづけているところであるとのことをお話を伺いました。

それでは、続いて NPO 法人三遠南信アミ、中野副理事長からお話をいただきたいと思います。

NPO 法人三遠南信アミ 中野副理事長

三遠南信地域が大好きで、ここに暮らして頑張っている人達のネットワークでございませう。このサミットに25年前からかかわらせていただいております。オブザーバーということで、我々NPO なものですから地域に暮らし、本当に頑張っている人たちの集まりなのですが、産業あるいは仕事の観点で考えてみています。

これから先の10年ですけれども、10年先を考えるとときに大切な視点だと思ったのは、人生100年の時代だということです。寿命が100年の時代ということは、本年生まれた赤ちゃんが最晩年を迎える100年後、あるいは100年の間もこの三遠南信地域に暮らして、働いて幸せだと思うようなまちづくり、地域づくりの視点からこの10年を捉えるのも大切かと思ひます。100年後の未来をわかるということはできませんが、考える上でその視点が大事かと思ひます。

実をいうと、新しい技術、産業、IoT、AI その他の産業がどう進展していくかは、正直言って、これは想像がつかないのではないのでしょうか。もちろん、企業の立場からすればそこに取り組むのは当然ですが、地域に暮らす我々にとって大切なのは、100年後もきっと大切に残したいというのは、天竜川の流域を核にして、三遠南信

地域の自然や風景といったものを100年後も残ってほしいし、残すべきだと思います。

それから、人と人がつながるコミュニティ、共同体が大切かと思ひます。

それから、もう一つが暮らしのもとをつくる産業という点でいうならば、三遠南信地域の力のもとでもある農林水産業が新しい技術や仕組みを生かしつつ、この地域で持続し、発展する仕組みづくりが大切かと思ひます。

本日午前中開催された住民セッションでは、新しい流れ、新しい風を本当に感じました。住民セッションに参加する者も高年齢化しており、僕も25年前このサミットに来たときは30代だったのですが、孫がいる年代にまでなっています。しかし、本日の住民セッションには、学生さんがたくさん来ていただきました。新しい風が生まれてきていると、もう一つのテーマの「人」にも思いをはせた時間でした。

コーディネーター

25年前から継続的にかかわっておられたとのことでした。私、不勉強にして大変失礼な質問をさせていただきますが、このアミとは、どういう意味なのでしょう。

NPO 法人三遠南信アミ 中野副理事長

フランス語で仲間、友達という意味のアミです。

コーディネーター

この地域でも人生100年時代、100年後にも皆さんが幸せで暮らしていけるようにと、持続可能な、サステイナブルなという言葉が、おそらくお考えの根底にあるのだらうと思ひて伺っておりました。自然や風景、コミュニティといったこと、昨日のNHKの大河ドラマ「おんな城主 直虎」の回がまさにそうでしたが、長篠の戦いに向

けて、木をいっぱい切って、戦いには勝ったのだけれど、どうも鉄砲水が出そうだと
なり、みんなで松を植えましょうとの話を
していました。サステイナブルにやってい
かないと地球そのものがもたないという価
値観は皆さんも共有しておられると思いま
す。

農林水産業が暮らしのもとであること
と、またそこに付加価値をつけていくこと
は、大事なことかと思って聞いておりました。
さらに、新しい世代がこういった地域の
問題について考え始めているという、希
望のともしびとなるお話もいただきました。

私も、学生たちが非常にリアルなつな
がりや、リアルな地域の課題に向き合うよ
うになってきていることを強く、強く感じ
ております。またそれが学生にとって非常
に貴重な学びの機会にもなっており、本学
でも学生たちが北遠地域にいろいろな分野
で入っています。本日さきほどのパネルデ
ィスカッションを行った4階のフロアに、
私どもの大学のチームが入っている様子を
まとめたパネルがありますので、ぜひ御覧
いただければなと宣伝をさせていただきます

ここまでのお話を受けて、大須賀会頭、
いかがでしょうか。

浜松商工会議所 大須賀会頭

これから電気自動車が優位になり、エ
ンジン積んだ自動車は必要がなくなります。
そうなれば、今ある自動車産業が必要
なくなり、その産業に従事している人た
ちが次に何をやっていくかということ
を今から変えていかなければなりません。
変化に10年かかるといわれていますが、
私は5年でそうなると思いますから、皆
で次の分野を考えていかなければなら
ないと、私は思います。

コーディネーター

電気を使った自動車の展開は、もう大
きな流れで、ヨーロッパなどは特にそれ
が進んでいるわけですから、これは変わ
りようがないですよ。

影山市長、若手の市長として、今後の
ビジョンについて思っていることがござ
いましたらどうぞ。

湖西市 影山市長

大須賀会頭がおっしゃるとおりで、先
ほどのお話にもあったとおり、湖西市
も自動車産業は多いのですが、伝統的
なガソリンエンジンを主体とした部品メ
ーカーがある一方で、プリウスのバッテ
リーをつくらしている会社もあり、混在
している中で、比重は新しいEV化に向
けた部品を作る企業に移ってきているこ
とは、間違いのないと思います。もち
ろん自動車だけではなく、航空産業や
医療など様々な産業も必要だと思っ
ております。行政としてもそういった変
化に対し、手をこまねいているだけ
でなく、産業の変化を先取りした形で、
企業の立地や誘致など、常に行政とし
てどんな施策が効果的かを考えなが
ら取り組んでいるつもりですし、やっ
ていかなければいけないと思っ
ています。

コーディネーター

杉本市長、どうぞ。

駒ヶ根市 杉本市長

最近、いろいろな人と相談する中で、
新しい産業を興そうというときに、日
本全体を見たときに、製造業の関
係はいろいろなものをつくって海外に
輸出していますよね。一方で、今、
国内で足りない産業というと、農
業関係の食料自給率を見ると残念
ながらまだ、30%ぐらいしかない
状況です。各地で農地の荒廃地が
どんどん増えていっ

てしまい、国土の保全もできなくなります。やはり農業に関してこれまでも食の安全などいわれているので、ぜひこれからはこの三遠南信全体で、この地域の人たちが食べるものはみんなここでつくろうよと、特に路地型だけではなくて、施設型にし、なおかつそれを第3次産業でチーズにしたりとか、肉にしたりとかをこの地域でやって食の安全を図っていくことができれば、現実的に三遠南信の皆さんがすぐに動き出せます。海、山があるし、起伏もあるので食品の種類は豊富だし、いろいろな交流ができたし、なおかつこの地域の新しい産業を興せたり、そういうことになると、都会にいるのが疲れてしまった若い方たちが、地域に帰って来て農業をしながら暮らしたりとか、二地域居住をしたいという意味では、この地域のポテンシャル、十分あるので、そういったことをこれからの三遠南信で現実的に連携をしていく一つのモデルにしたらいいいと感じております。

コーディネーター

この地域は、海に面したところから標高の高い山まであって、非常に植生も豊かであるということは、そこでできるものも多種多様にあるということですね。それから、製造業の蓄積もあって、そこに第3次産業をかませ、第6次産業として、付加価値を高めていくと、こういったことですね。

駒ヶ根市 杉本市長

農業をやっている人たちは、技術的な面でなかなか足りないところがあるので、工業の皆さんに生産性を高めるための新しい機械をつくってもらおうとか、第3次産業の皆さんに商域を開いてもらおうとか、お互いが連携していけば本当にいいと思います。農業の皆さんって、どこに売ったらいいの

か、どう機械化したらいいいかわかりません。しかし、工業や商業の皆さんがかかわればすごく魅力的なものになると思うので、すべての皆が連携するという意味でもいいプロジェクトができるかなと思っています。

コーディネーター

大須賀会頭、どうぞ。

浜松商工会議所 大須賀会頭

農業は経営者が高齢化しており、跡取りがいまいません。跡取りがない理由は、お嫁さんが来ないからです。農業はどうしても家族の手伝いがないとできないルールみたいなんです。お嫁さんが来ないから、若い人が跡をつがず、減ってしまっている。だから農家がどんどん疲弊して、今、平均年齢が73歳ぐらいになっているのですが、そういう面も一緒になって考えていかないといけません。

コーディネーター

杉本市長、どうぞ。

駒ヶ根市 杉本市長

長野県には、レタスの生産地として有名な川上村があります。その村は、若い人たちがみんな来て一緒に農業をやります。今では若い人がお嫁に来ることが多いので、やはり稼げる農業にする、魅力的なものにするということが重要だと思います。そして、企業の皆さんに、こういう農作物をつくったら食品関係の企業が10年間は必ずあなたにつくったものを買ってくれるから、その代わりに、こういうものをつくってください、こういう機械化したらいいいです、と技術的に指導をしていただくと、うまくいくと思うのです。そういう関係をつくって、農業の皆さんも安定的に買ってもらうところがあれば、若い人たちも魅力をもっ

てくれるのではないかと考えています。

コーディネーター

今、非常に重要なヒントを得たと私は感じています。結局、旧来型の20世紀型の農業のイメージだと女性が混入してこない形だけれども、そこにビジネスとしてのビジョンがあって、さらに自分たちの食べるものは自分たちでつくって、顔の見える関係で、食と生活がつながっているとなってくると、そこに女性たちが働き場を見出すわけですよ。工場を誘致してくるだけではなく、むしろ農業で生き生きと働くモデルを地方でつくって、さらに都会から人が入ってくれば、都会のマーケットで売るにはどうすればいいかとの視点も入ってきます。農業をもう1回見直すことが「技」と「人」を考える際の一つの重要なポイントなのかなと、ヒントが浮かび上がりました。



コーディネーター

それでは、「人」についても、御発言をいただきます。まずは豊川市の山脇市長からお願いします。

豊川市 山脇市長

全体会のパネルディスカッションで、浜松商工会議所の大須賀会頭の外国人の特区をつくって受け入れるという話は、本当に素晴らしい話だと思っており、東三河でも何とかできるのではないかと考えたところでした。

さて「人」についてですが、やはり人づくりが一番重要だと思っております。豊川市には高校駅伝の全国大会に15回出場している名門の愛知県立豊川工業高校があります。ぜひ皆さんに知っていただきたいと思うのは、この高校では、駅伝を通して人づくりに取り組んでおり、例えば挨拶がしっかりできるとか、大会に前の道路を掃除するなど、すばらしい人づくりができています。豊川工業高校の卒業生は、非常に高い就職率をほこっております。大企業からも多くの募集がある状況であり、スポーツを通じた高校での人づくりとして成果を上げていると感じております。私も「スポーツの盛んなまちづくりを」と言っているものですから、スポーツを通して人づくりができればと考えています。

また、先ほど湖西市長から、湖西市で開催されているネオテクノフェアのお話がありましたが、豊川市では、豊川信用金庫が本年度13回を迎えるビジネス交流会を開催しています。本年度は202の企業、行政、そして学校など多くの方が参加しております。その中で、高校生がいろいろなビジネスのアイデアを出して、それを皆さんに披露する場があります。この取組もこの私どもの地域のいろいろな発展に大変寄与しているので、これからもぜひ力を入れていきたいと思っています。

コーディネーター

駅伝の豊川工業高校の話から、スポーツを通じた人づくりと、その重要性をお話いただきました。また、豊川信用金庫のビジネス交流会で、高校生もアイデアを出して披露し、若い世代と地域の企業さんが出会う場をつくることは非常に大事なことです。どうしても、高校生は消費者の立場で、企業といえればいわゆるナショナルカンパニーのイメージしかないものですから、

地域のいろいろな企業さん、とりわけ B to B、ビジネスとビジネスの取引が中心になる企業は高校生には全然わからないので、そういった企業と出会う機会があることはとても大事だと思って聞いておりました。

それでは次に、浜松商工会議所の大須賀会頭、よろしくお願ひいたします。

浜松商工会議所 大須賀会頭

今後人口が減っていく中で、今、人は「働く金の卵」と言われています。そういう中で、優秀な人を採用するとの話を聞きますけど、私はそうではなくて、採用した人を優秀に育てることが企業の責務だと思っています。どんなに良い大学を出ても、自信を無くしたら駄目になってしまいます。自信を持たせてやれば皆優秀になります。だから、自信を持たせるためにどうするのが問題であり、私は、社員を優秀に育てることができる企業が勝ち組になると考えています。何か問題が起きた時に、「お前こんなことも出来ないのか。」と、頭ごなしにしかりつけると委縮してしまいますが、少しのことでよくやったと本人を認めてあげると、だんだん自信を付けていきます。常にやったことを認めて「もうちょっと努力すると、もっとこうなるよ」と助言を与えれば成長します。これからの企業は、人が不足する中で、社員を育てられなければ、どんな良い人材を採用しても何にもならないし、自信を持たせれば誰でも優秀な人材に育つのだと、私は思います。

コーディネーター

大須賀会頭なりの人材育成の秘訣を御披露いただいたわけですが、先ほどのパネルディスカッションでは、人手不足の企業が多いと、さらには廃業せざるを得ないような企業も多い状況をアンケート調査等で明らかにした上で、例えば外国人特区のよ

うなものをこの三遠南信地域で試みてはどうかと御提案をいただきました。また、それは先ほどの山脇市長からもおもしろいとお話をいただいたわけですが、大須賀会頭のイメージする外国人特区でやってくる外国人は、今の枠組みでいうと技能実習生のような若い単身者なのか、あるいはブラジル人、ペルー人のように家族でやってくる人たちなのか、そのイメージはいかがですか。

浜松商工会議所 大須賀会頭

私は、どちらでも構わないと思います。ただし、技能研修生は、今は3年で帰らなくてははいけません。そうではなくて、10年なら10年というルールにして、皆で育てることをしなければならない。なぜかといえ、データで見ると人の減り方がすごく、間違いなく人材の供給が追いつかなくなってしまう。働く人が本当に半分になっていいのかということを見直す必要があります。食品も医療も、全部人口が増えれば景気が良くなりますが、人が減り、消費も減れば、景気は絶対に良くなりません。だから、まず人を雇うということです。

コーディネーター

今は技能実習生制度が3年、もうじき5年に延長されるといいますが、そういう場当たりのことではなく、むしろ日本に働きに来て、そして戦力となっていく人づくりをしていかないと難しいのではないかと御指摘をいただきました。

それでは次は、駒ヶ根市の杉本市長からお話いただきます。

駒ヶ根市 杉本市長

当地域の有効求人倍率は今およそ1.7です。企業の皆さんと話をすると、人を連れて来てもらわないと企業が存続できず、新

しい企業を呼ぼうにも、人がいないからこのままでは呼べないのが現実です。商工会議所の会頭と話す中で、ぜひ市役所に特区で職業紹介の権限を持ち、現在国外から受け入れる取り組みをぜひやっていただきたいと、お願いをされています。

一方で、経営者協会などとも取り組む中で、高校生を卒業した人が進学したい人ばかりではないのではないかと、本来は勤めたいのではないかと、だからここに勤めてもらうようにしよう。現在、大学に進学した者の3割しか戻らず、特に女性は戻ってきません。そこで、この子どもたちを地域に残すために、郷土愛プロジェクトを始めました。高校や中学校の先生たちが必ずしもその地域出身の人ではなく、地域にある企業が何をやっているかわからないし、この地域にどういった企業があるのか全然知りません。進路指導の場面で「いい大学に行っていればいい企業に行け」とだけ言っているから、学生は全然地域に残ってくれません。そこで、大体1回100人くらいの高校の先生に来てもらい、どんな企業があるのか見てもらい、また夏休みには、親子企業訪問で、中学生の親子に各地元の企業を見ていただき、高校にも、普通科とかではなくて、地域を支える科をつくってもらい、地域が望む人材の育成、その高校を出たら企業が必ず採用する道筋をつくっていかないと、本当に深刻な問題になっていくと思っています。地道ですけれども、地域では経営者協会などと組んで、学校任せではない地域に担い手が残るプログラムを始めております。

それからもう一つ、多文化共生、また青少年の国際化として、駒ヶ根市には、青年海外協力隊の訓練所がございます。日本において、駒ヶ根市と二本松市の2か所しかございません。今年で駒ヶ根市は38年になりますが、2万人を超える JICA ボランティアが駒ヶ根市から世界に羽ばたいていって

おります。今も、1年間に800人の若者たちが高い志を持って発展途上国に行っています。実は、その皆さんが帰ってきたときに受け入れをする青年海外協力協会の本部が、来年2月に東京から駒ヶ根市に移転することになりました。それはなぜかと聞いたら、発展途上国に行き、東京にいるよりも地方に行き、地方創生をやりたいと、若者たちが帰ってきていただいております。それがこの三遠南信地域内にありますので、高いスキルと高い志を持った2年間、発展途上国に行った若者たちが、またこの地域で受け入れてくれるとなれば、この地域のいい人材にもなり、生かしていければ新しいこの地域の発展につながるので、今後プロジェクトもつくっていったらどうかと思っておりますし、JICA の皆さんもそう強く思っております。

また、国等も生涯活躍のまちづくりを進めていますので、都会で困っている高齢者の皆さんを働き手として受け入れる生涯活躍のまちづくりを、この地域で取り組むことの一つとして提案をさせていただきます。

コーディネーター

高校生に地元の企業を知ってもらう前に、高校の先生方に知ってもらうのは非常に大事なことです。進学先となる大学を決める際も、高校の3者面談で、先生が「君の成績だとここなんかどうだろう」というと、子どもも「はい、わかりました」と決めてしまうことが多いようです。私どもの大学で、新入生にアンケートなどを取ってみると、最も影響のあるものは高校の先生のアドバイスでした。そこで、高校の先生に私たちの大学を知ってもらうという戦略を取っています。

話を戻すと、地元の企業を高校の先生に知っていただければ、高校の先生は転勤がありますので、よその町にいても、駒ヶ

根市にこういう企業があったと言ってく
さるかと思います。ぜひ企業と高校の先生
の間で、もちろん生徒もそうですけれど、
顔の見える関係をつくっていく地道な努力
が大事かなと思って伺っていました。

また、国際化に関連し、駒ヶ根市には青
年海外協力隊の訓練所があり、また青年海
外協力協会の本部が東京からやってくる
ということで、経験、ノウハウを持った若い
人たちがまた駒ヶ根市に戻ってきます。先
ほどの白鳥町長のお話でしたが、外の人た
ちの知恵、あるいはネットワークもぜひ組
み込んでまちづくりに違った活力を得たい
とお話がありましたが、そういったところ
も響きあっていくのかと思って聞いており
ました。

それでは、次は阿智村の熊谷村長にお願
いいたします。

阿智村 熊谷村長

まずは、これから新ビジョンがどう進ん
でいくかという中で、人材の大切さ、これ
を入れていただいたことがすごくありがた
いし、うれしいと思います。例えば、スズ
キやトヨタのように技術的な面もそうで
すし、家康公もそうですし、この三遠南信地
域は人を育てるには最適な地域だともっと
売りだすべきではないかと思います。これ
から10年の方向としてぜひお願いしたい
と思います。

私も常々思っていることは、駒ヶ根市長と
似ているのですが、この三遠南信地域は、
日本の中心地にあり、これからリニア中央
新幹線も走ります。そして、社会人、1回
リタイアされた方、高齢者には、もう1回
勉強したいと考えている方も山のようにい
らっしゃると思います。そういった方々が
自然豊かな三遠南信地域で、2泊3日で航空
宇宙産業や自動車産業など技術的なことの
勉強や、道徳的なことを学ぶことができ、

人材を育成する場だともっと打ち出して
いくことが技術者を生み、産業振興につな
がっていくと思います。

それと、私ども阿智村には昼神温泉郷が
あり、今、星空の関係で取組んでいるので
すが、全国から星のことをやりたいと来て
くれる若者、特に女性が結構います。三遠
南信地域内にも、様々な企業があり、例え
ば観光業にしても、人材不足が深刻であり、
全国から人を集められるPRをSENAでやっ
ていただくとうれしいと思いますので、
それも一つ提案だと思っております。雇用
の場の確保をし、そういった方が将来、定
住してくればありがたいと思っています。

最後に、毎年分科会で議論し、第25回も
やっていて言いつばなしになってしまうこ
ともあったのですが、これを実現させてい
くためにSENAの組織の中に人を配置して、
それに特化して取り組む人、事業をしっか
りやる人を配置して、SENAの事業として
運営していく体制が必要かと思っています。
これは予算的な課題もあるかと思っています
ので、まずは人を配置して、実際どのよう
な事業をやっていくかという検討を進めて
いければよろしいかと思っています。

コーディネーター

人材育成の拠点としての三遠南信地域と
のお話ですね。都会にはない、いろいろな
資源がある場所なので、それを逆手に取っ
てリタイアした人、あるいは生涯学習した
い人たちにもう一度勉強してもらう機会を
設けること、あるいは、星空のガイド、こ
ういった都会ではなかなかできないこと
ですが、あそこに行けば非常に特化した学
びができるといった売り出しも一つでは
ないかというお話がありました。それから、
最後は非常に具体的な御提案をいただき
ました。SENAの中にいわば事業部門をつ
くり、アイデアを形にしていく人を配置
していく

と良いのではないかというお話でした。一つ一つできることから形にしていく、そういう段階に来ているのではないかという御指摘をいただきました。

向こう10年を見たときにこれまでのような企画をする、調整をするところから1歩踏み出すとすると、具体的な事業の展開があり得るようなシナリオかと思って伺っていた次第です。

それでは、和合むらの吉田さん、お願いします。

和合むら 吉田氏

私は阿南町の広大な山間部を占める和合地区に移り住んで18年がたちました。田畑を耕して、なんとか暮らしていければいいと思っているのですが、この10年ほどは、和合地区で受け継がれている伝統食の企画販売も細々と続けています。

私が暮らし始めてから既に尊敬する和合地区の人たちが100人以上も亡くなりました。その方たちが守ってきた愛おしい山間の風景も、同時に少しずつ荒廃していて、そんな風景を見るのがやるせない、悲しい気持ちになることは多いのが現状です。悲しくて、さみしくてこの先これ以上の方々を亡くすには耐えられないと思ったときもあったのですが、この頃になってすごく自分でも不思議だと思うのですが、その方たちの思い出が私の中で本当に強く生き始めていて、例えばあの方はこのときこうしていた、こんなときはこう言ってくれたということが本当にどんどん募って行って、今はこの山間の和合地区で生き続けていくことに、気持ちの上で揺るぎがなくなっています。

私が住み始めて18年間を振り返ったときに、ほかの地域から移り住んできて、そしてまた離れていった人たちも多くいます。その数や理由を考えると、人材育成とか確

保はすごく重要な課題であるのですが、計画してもなかなか計画通りにいかないものだと考えざるを得ません。地域社会に適応する、適応してまた活路を見出して住み続けられるかは、個人的な事情によるのです。私もそうですけれど、各地域からいかに楽しく豊かに暮らしているかという情報発信をできるだけ楽な方法で、あらゆる手段で数多くし続けることがよいと思っています。そして、実際その中で和合地区に来てくれて住み続けようと決心してくれた人たちもいるので、そういう機会を多く持っていきたいと思っています。

また、とりわけ三遠南信地域には、祭り街道という大きなつながりがあるので、もうちょっと連携して情報発信をしていけるといいのかと考えました。例えば、祭り街道クラスターとかいう発想はいかがでしょうか。祭りの歴史的、文化的要素とか、祭りの道具を維持継承するための工芸的要素とか、それからその祭りを支え、食の面で支えている伝統食のあり方、農林漁業なども、みんな切り離しては考えられないので、祭りという切り口から山の暮らしをもう少し情報発信できます。それは、産官民学で取り組んで見るとちょっとおもしろいテーマではないのかなと思いました。四季折々の恵みを最大限に活用する山の暮らしの技の中には、本当に知恵の集積があって、きっちり、きっちり季節ごとに、毎日、毎日こなしていかなければいけない仕事があって、その抜き差しならない厳しい毎日を1人でも多く、みんなで乗り切っているために、祭りという文化が生まれて育まれて、そしてその時代ごとに必要な役割を果たしてきたのではないかと思っています。三遠南信地域の山間に数多く残っている祭りには、それぞれにつましく、たくましく生きてきた日本人像が凝縮されていると感じています。高度経済成長をかつて底辺か

ら支えたのも、この日本列島の谷筋や山ひだから排出されていった人々のすごく強い精神力や叡智によるものではなかったでしょうか。これから先の日本のあるべき姿もそういった山の暮らしから見いだされていくように思えて仕方ありません。

ちょっと抽象的な話で済みませんが、祭りを取り巻く環境も変わってきたし、継承することが厳しい現実も直面しているのですが、できる限り楽に後世に続けていくこと、つなげること、またそういった精神のごく一部でも、多くの都市生活者、外の人に伝えていくことが重要なことと思えてなりません。

山の暮らしはそもそも多文化共生の要素がたくさんあるし、本当に持続発展的な人の道だと思いますので、このような暮らしに共感する人に1人でも多く訪れてもらえるように、三遠南信地域一丸となってその象徴である祭りを中心にともに情報発信ができる場があるといいなと願って、私の発言を終わらせていただきます。

コーディネーター

山での暮らし、特に外部から来た方だからわかるそのよさがお話からにじみ出ていたと思います。この三遠南信地域の祭りは、本当に世界遺産クラスなのですが、それをもとに地域の暮らし、特に山の暮らしを発信していけば、いかに楽しく、豊かで、人々が生きているかを知っていただくと御提言いただきました。

今、確かに人が都会にどんどん出て行っているのですが、都会で非常に疲れてしまっていて、人と自然が調和する暮らしを求める人たちが増えているのも一方の事実です。そういった人たちに、今はやりの言葉でいうと「刺さる」ような発信を三遠南信地域からしていくといいのではないかと御発言と受け取りました。

幸い、私たちはあと10分ほど時間を持っております。人に関する御発言でも結構ですし、これまでの御発言に対して、こんなことを感じたという方がいらっしゃいましたら、御発言をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

豊川商工会議所 小野会頭

昨年度のサミットでも少し申し上げたと思うのですが、三遠南信地域で今できることというよりも、次の世代にこの三遠南信地域の交流をつないでいくためにすべきことは、子どもたちに影響を与えることだと思うのです。子どもたちに影響を与えるのは、学校を通じて行うのが一番手っ取り早いと思います。林間学校を交流したり、臨海学校を交流したり、要するに山の子たちが海に出てきたり、海の人たちが山へ行ったりすることを、行政、もしくは SENA が推進し、ほかの地域より回数をふやすことによって、自分たちがこの三遠南信地域の中で育っていることが感じられる機会をつくります。また、先ほど高校の先生の話が出ましたが、高校同士の交流や企業の研修をすることによって、高校の先生の影響が一番強いという自覚を持っていただきたいです。教育面での交流は今から始めてようやくあと20年後にこの話が成り立つぐらい長い話です。先ほど吉田さんが言われたように、文化面、歴史面の交流、文化人類学のような学問的な話でこの三遠南信地域を無理やりくっつけていくのはどうか思うのですが、この歴史的、文化的な背景や地域的なものをもっとアピールする場をつくり、行政、産業というよりも、学術シンポジウムのようなものをもっとしっかりやって、文化面も取り組み、それを子どもたちに伝えることが20年後、30年後に向けた三遠南信地域の話ではないかと思うのです。

この地域は、本日もそれぞれの地域の方

言で話しても、通じ合うところなのです。この地域が分かれたのは、行政の区域で離されたところであって、もともと文化圏とか歴史圏は同じ地域だったことをもう1回認識しあって、ぜひ子どもたちに伝えることをやっていただきたいと思います。

コーディネーター

子どもたちに伝えることの重要性とその具体的な方法について今、臨海学校、林間学校の相互交流であるとか、高校の先生方の交流の提案をいただきました。

また、歴史文化面の交流について、学術シンポジウムのようなものやってみてはどうかのお話です。

本学も、もうあと2年後ぐらいになります。文明観光学コースを立ち上げることになっております。その文明学という大きな視点から地域の観光資源を掘り起こしていく上では、飯田街道周辺の祭りは非常に重要な意味をもつわけです。

それでは、ほかに御発言いかがでしょうか。

箕輪町 白鳥町長

私たちの町には小学校が五つあるのですが、5校が社会見学で浜名湖へきています。やはり海なし県であり、海に対する感動は、皆さんとは全然別なのですが、そこで単に観光ではなくて、社会見学で地引網などいろいろなことを体験して帰ってくると、今まで山の暮らしだけのものが、大海原を知るということで大変感動して帰ってきています。そういった小さい頃の交流がもっと必要だと思いますので、また受け入れをしていただければありがたいと思います。それには、時間、距離をもう少し短くしないといけないかもしれません。

もう1点、田園回帰のような話は、非常に確かな足取りであるのだと思うのです。

先ほども杉本市長が農業の産業化の話をしていましたが、一方で農的な暮らしをもう一度取り戻すことが必要だと思っています。例えば、どこかの工場や商店に勤めながら農業をしてそれで生活を立てていく、その中で暮らしやすさ、楽しさを感じ、そういった地域の生活がいい生活なのだと意識を取り戻さないと、どうしても都会に出ていってしまいます。農的な暮らしの話をもっと盛んにしていかなければいけないと思っています。それが、例えば長野だけではなくて、地域での生活を考えていく上でどうしても必要だと思っています。

コーディネーター

農業そのもののポジティブな捉え方に、もう1回光を当ててみようということですね。

はい、杉本市長どうぞ。

駒ヶ根市 杉本市長

今、普通の教科書を見ると、地元のことがあまり書かれていないので、私実は、駒ヶ根市の歴史とか伝統文芸だけの副読本をつくり、学校で子どもたちに教えてもらっているのです。そうでなければ、子どもたちが地域のことを学ぶ場所がありません。お年寄りとも一緒に暮らさないの、お年寄りの皆さんからも地域のことを学べず、地域のことに参加をしろと言っても知らないし、参加ができません。もし、この三遠南信地域についても、祭りのことや昔から同じような伝統文化があったこと、またこんな企業があってこのように頑張っているという情報を、できればこの SENA で共通して情報発信をするものがあれば、お互いの共通認識で同じ話ができて、お年寄りも子どもたちにも伝えていけると、思いましたので、SENA で取り組んだらどうなのかと思いました。

コーディネーター

三遠南信共通の副読本のご提案でした。地域の文化、その多様性と共通性、交流の歴史などを子どもたちが学ぶ、それを長野県、愛知県と静岡県、子どもも学んで、大人もそれを語る形でかかわっていくような副読本をつくってみてはどうかとのお話でした。

中野さん、先ほど前半で「技」についてのお話をいただきましたが、「人」についてはどうでしょうか。

NPO 法人三遠南信アミ 中野副理事長

本日、午前中に行われた住民セッションで学生さん、静岡文化芸術大学の先生、若者たちとの取り組み、それから本当に若い人たちがこの三遠南信地域が好きで、住み続けたい、住みたい、帰りたいとの想いを聞きながら、勇気をいただきました。そのうちの1人の伊藤君は、東栄町出身で名古屋の大学へ行って、今、東栄町で若者地元会議をつくって、大学進学や就職のために地域を離れているけれども、東栄町に思いをはせており、どうしたら帰れるのだろうかと考えています。それは定住やUターンでなくても、定期的に帰ること、家族の面倒を見ることなど、いろいろなことを考えていこうとやり出した若者会議は、すばらしい取り組みだと思っています。そのあと私の知り合いに聞いたら、定住人口とか交流人口、人口の減少問題はあるのですが、もう一つ、関係人口というものをおっしゃる先生がいるのだそうです。それは観光客でもなく、その町や村に定住しているでもなく、でもその町や村が好きで応援している、あるいはその魅力を感じたら、勝手に宣伝するような人を関係人口とっているらしいのですけれども、その人たちもとても地域の活性化には大事ではないかとの意見を聞き、なるほどと思いました。三遠南

信アミは、吉田さんの和合むらを応援し、東栄町とか、売木村などを本当に勝手に「いいところだよ」といって人にお知らせしているのです。そういう人も大切なのかなと、それが情報発信、情報の伝達として、三遠南信地域に、そういう人たちがいっぱいいたら、お互いにお互いの魅力を発信するのも大切かなと思うと同時に、そういう人が集まって情報をお互いに交換し、何か刺激をいただいて、新しいことを起こしていく場や仕組み作りが大事なのかなと思っています。

シリコンバレーは、アメリカのIT産業が集積したところですが、ITに限らず、シリコンバレーは人の集積地なのです。人が集まってお互いに刺激をしあい、情報を交換する中から、起業、新しいビジネスが生まれている場だと思うので、その三遠南信版のそれがつくれたらいいと思います。

コーディネーター

定住人口、交流人口ともう一つ関係人口としてみなしうる人たちもかかわってくる場づくり、巻き込みの仕組みをつくってみてはどうかとのお話でした。

では、吉田さん、御発言をお願いします。

和合むら 吉田氏

本日、いろいろと具体的なビジョンに関する御意見を出し合って、それを策定した後には新ビジョンを動かしていくために、阿智村の熊谷村長がおっしゃっていたように実動部隊を創設することは、本当にどうしてもお願いしたいです。

コーディネーター

最後に現場からの熱い声を伺いました。新ビジョン策定は、10年前のビジョンの改定になりますので、ずいぶんと社会的な環境が変わっています。その中で、多方面

からの視点による非常に貴重な御意見をいただいたことに対して改めて感謝申し上げます。これ以外にも、いろいろな意見があるかと思うのですが、当初予定の時間となりましたので、技及び人に関するセッションを区切りとさせていただきます。

この後の報告会では、皆様からいただいた多様な、また具体的な意見について、時間の都合上、主な意見として整理した上で、私が報告をさせていただきます。

また、本日の御意見を新ビジョンの策定に生かしていくことをお約束いたします。その上で報告の具体的な内容、特に文言等については、本日この分科会のコーディネーターを仰せつかりました、私に一任ということで御理解いただければうれしいのですが、よろしいでしょうか。

それでは、皆様の御協力によって円滑かつ、非常に内容の濃い、具体的な意見交換をすることができました。改めて御礼を申し上げます。

以上をもちまして、技・人の分科会を閉会いたします。

